

Title	講座・ 国際経済・ 第2巻 国際収支
Sub Title	
Author	矢内原, 勝
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1961
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.54, No.9 (1961. 9) ,p.837(105)-
JaLC DOI	10.14991/001.19610901-0105
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19610901-0105

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ヘスを研究することは、ヘスの存在意義をもそのような限定された観点の中で考えることになりやすく、山中氏の場合のように否定的な答えがでたとき、ヘスの存在意義、あるいは研究意義はまた、さらに別の所にもとめられねばならないのである。かくて、ヘスとマルクスの疎外概念の対比という限られた視点の中でのみ、ヘスをみることは問題があり、初期社会主義者ヘス、という更に広い視野

をもたねばならないことは明らかであるとしても、しかも本書の著者のように、そのような問題視点をまったく持っていないことは、本書にとって大きな欠陥であることは否めない。著者は、マルクスにおいて、疎外概念の発展が、彼をして科学的社會主義者たらしめる媒介者となったのだ、という認識すら欠けているのではなからうか。

新刊紹介

講座・国際経済・第2巻

『国際収支』

国際収支は国際経済学のみならずはよく開拓された分野であり、国際経済についてのテキスト・ブックにはかならず取り扱われている。国際収支についての単行本としても、土屋六郎著『経済成長と国際収支』中央経済社がある。本書は有斐閣が企画した『講座・国際経済』全6巻のうちの第一回配本として出された第2巻である。これを土屋氏の前掲書と比較すると、次のような特色がみられる。

土屋氏が「経済成長」に統一的観点を置き、国際収支の理論的分析を主眼とされているのに対し、本書は国際収支についての歴史、理論、政策、現状分析を、専門別に九人の筆者が担当している。現実に生起している国際経済の諸現象を理解するため、その歴史と理論と現状とを体系的に、かつやさしく解

明する、というのが講座全体としての狙いであり、本書の、序説 国際収支と国際協調、I 金本位制の理論と歴史、II 国際収支論、III 国際収支の現状分析、国際収支セミナー、という章構成もこの趣旨に沿っている。ただし、とくに理論の部分はあまり「やさしく」ないかもしれない。

国際収支理論はいわば技術論であるから、執筆者によって意見がぐいちがうということはない。しかし理論部分と、問題と文献を取り扱った「国際収支セミナー」、さらに現状分析を担当した人も、多少は理論に触れているので、これらの間に意見がぐいちがわないまでも、重複していると思われる箇所があり、その場合説明の仕方もいくらかは違っている。これが「体系的」ということについての難点である。

講座全体のもう一つの狙いである、「国際経済事典の役割」を本書に果させるためには、巻末に事項索引が必要であらう。

本書が第一回配本であり、他の巻は未だ刊行されていないので、講座全体の批評はできないが、本書だけについていえば、国際収支

の理論と歴史についてはすでに書かれたものも多いので、ドル危機、貿易の自由化など最新の問題についての現状分析に興味が見出される。学生諸君にとっては国際収支についての入門書としても利用できると思われる。(有斐閣刊・A5・二四九頁・四五〇円)

—矢内原 勝—

* * *

W・W・ロストウ著

木村健康・久保まち子・村上泰亮共訳

『経済成長の諸段階』

W. W. Rostow, The Stages of Economic Growth—A Non-Communist Manifesto, 1960. この原著は既にその出版以来、各国の識者の間に多大の関心を惹起してきたことは周知の通りであるが、ここにその邦訳がなされ、わが国の読書界にも更に広く親しまれようとしている。「非共産党宣言」なる公衆の耳目を魅するような副題をもつこの書には、その理論の形式的及び内容的両側面から、いろいろ興味ある特色がある。まず従来